

2006 年度

科目名 宗教学講読 B	対象学科・学年 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 貫名 譲
授業テーマ 『歎異抄』の世界にふれる		
授業の概要と目標 鎌倉時代に生きた親鸞の言葉を通して、彼が人々に与えた影響をうかがっていききたいと思います。親鸞と縁のあった人は大勢いましたが、中でも親鸞の晩年に直接教えを受けた唯円によって著された『歎異抄』には、親鸞の人柄と思想を端緒に見て取ることができます。最初はあっと驚かされるような表現ながら、よくよく考えてみればなるほどその通りであると、肯かされるものが多くあります。授業で『歎異抄』を読んでいく中で、人々に与えた影響の一端を窺っていききたいと思います。		
評価方法 レポート試験（60％）、出席状況・授業態度（40％）の総合評価で行います。		
テキスト 最初の授業時に指示をします	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. はじめに 2. 『歎異抄』とは ～作者と親鸞のかかわり～ 3. 阿彌陀仏の願い ～不可思議なはたらき～ 4. 念仏を称えるとは？ ～地獄こそ私のすみか～ 5. 「わたし」はどんな人？ ～悪人こそが救われる？～ 6. 私は他者を救えるか？ ～慈悲の心とはどんなもの？～ 7. 先祖と私と子孫 ～供養は誰がするの？誰のもの？～ 8. 「わたし」と「あなた」 ～弟子も師匠もない。「なかま」である～ 9. 信仰に生きる人とは？ ～教えを信じるとどうなるの？～ 10. 念仏はだれのもの？ ～私が称えるけれども、私のものではない？～ 11. よろこべる心は起こらない？ ～煩惱は死ぬまで消えることはない～ 12. 親鸞の真意 ～唯円がみた親鸞のすがた～ 13. 『歎異抄』のまとめ 14. 総括 15. レポート試験		